

# 平成23年度第5回庁議 会議録

[日 時] 平成23年8月2日(火) 午前9時15分～午前10時45分

[場 所] 本庁応接会議室

[出席者] 市長、教育長及び各部局長

[会次第]

1 市長あいさつ

2 議 題

(1) 新居浜市立保育所の民営化に関する基本方針の見直しについて (福祉部)

(2) 総合文化施設について (企画局)

3 連絡事項

市政75周年記念事業について

1 市長あいさつ

おはようございます。

8月に入りまして、連日暑さが続いておりますが、みなさん体調管理にはくれぐれもご留意願います。

まちづくり校区集会は別子山校区が台風のため延期になりましたが、昨晚の神郷まで終了いたしました。各地域の推進員また関係の職員も御苦勞ですが、8月11日まで7校区残っておりますので、よろしくお願いたします。

今朝は、山元町に職員2人が明日から派遣されますことから、挨拶を受けましたが、派遣も続いていくと思っておりますので、対応をよろしくお願いたします。

また、8月1日付で職員2名を採用いたしました。道路課と保健センターに配属となります。年度途中の採用となりますが、指導、研修をよろしくお願いたします。

2 議事

(1) 新居浜市立保育所の民営化に関する基本方針の見直しについて

市 長 それでは、議事に入る。

まず、新居浜市立保育所の民営化に関する基本方針の見直しについて、福祉部から願います。

## <福祉部長>

新居浜市立保育所の民営化に関する基本方針の見直しについて説明をいたします。

はじめに、これまでの経緯についてですが、平成16年に庁内組織である新居浜市立保育所民営化等検討委員会を、平成17年には各種団体員や公募委員で構成する新居浜市立民営化検討協議会を組織し、保育所の民営化のあり方等について一定の方向性を示しました。これを基に、平成18年5月には、新居浜市立保育所の民営化に関する基本方針案を策定し、市議会、保護者への説明を経て、パブリックコメントを実施し、11月には基本方針を策定いたしました。このことにより、南沢津・八雲・中萩・新居浜の4園を民間移管することに決定いたしました。そして、平成18年12月議会において八雲保育園の民営化条例議案が可決され、平成20年4月から新居浜社会福祉事業協会に、平成19年9月議会では南沢津保育園の民営化条例議案が可決され、平成21年4月から新居浜社会福祉事業協会に民間移管いたしました。しかし、平成20年9月議会において中萩保育園の民営化条例議案を上程いたしました。継続審査となる一方で、保護者会から提出された民営化の見直しを求める陳情書が採択となりました。このことから、平成21年2月議会で中萩保育園の民営化条例議案を一度撤回し、平成22年3月議会において、平成24年4月に中萩保育園を、平成25年4月に新居浜保育園を民間移管するようスケジュールの見直しを行ったうえで、平成22年9月議会に再度、中萩保育園の民営化条例議案を上程し可決されたことにより、平成24年4月に社会福祉法人三恵会に民間移管される予定で現在作業を進めている。

次に、見直しをすることとなった端緒です。新居浜市立保育所の民営化に関する基本方針では、保育所民営化の方法として、民営化対象保育園選定の考え方を定めています。それは、継続的、安定的に運営できる大規模保育所ということ、つまり、経営が十分に成り立つ保育所を民間に担ってもらおうということです。このことから、認可定員が多く、入所充足率の高い定員160人の南沢津保育園、150人の八雲保育園、140人の中萩保育園、そして120人の新居浜保育園が対象となりました。120人定員では、他に東田、多喜浜、大生院の3園がありましたが、東田、多喜浜は定員を増やしたばかりで不安定要素があること、大生院は充足率が低いことから、新居浜保育園を選定いたしました。

次に、見直しの理由です。これは、新居浜保育園の定員充足率が著しく低下していることです。平成17年度末で116.7%だったものが、平成22年度末には68.3%にまで低下しています。したがって、基本方針において、民営化を行う保育所の選定要件として規定する「保育所を継続的、安定的に運営できる大規模保育所」の要件を満たさなくなっていると言わざるを得ません。このままでは、安定的、継続的に経営の成り立つ園として、市として責任を持って民間移管することができないと判断されます。私立保育所と公立保育所の役割分担ということで基本的な考え方としては公立保育所は継続的安定的に児童を確保できず、経営に不安定要因が残る保育所を担当するという考え方で出発している。充足率の推移ですが減少傾向となっている。

次に、充足率低下の要因と今後の見通しについてです。まず、宮西校区における0歳

から5歳までの人口の減少ですが、平成17年には297人だったものが、平成23年には281人と5.4%低下していることが一つです。二つ目には、近隣保育所の定員増があります。つまり、平成21年にみなと保育園が改築されたことに伴い、定員が60人から90人に30人増員されたことがあります。三つ目には、近隣地域に認可外保育所が新設されたことが考えられます。平成20年には、すみかキッズえひめ（新須賀町：定員49人）が開設したこと。また平成22年には、はびねす保育所（若水町：定員34人）が開設したことなどでございます。

なお、今後においても平成24年度に若宮保育園と若水乳児園の合築による建て替えを行い、平成25年度から定員を90人から120人へ増やすことから、近隣の新居浜保育園において定員充足を図ることは難しい状況にあると見込まれます。

次に、経営面での試算を行いました。これは、同規模の私立保育所の決算を参考に、定員120人で、入所児童数が80人であったと仮定した場合のものです。運営費収入と延長保育収入など約7,909万円から人件費、事務費、事業費約8,235万円を差し引いた額は、マイナス約326万円となります。

次に、新居浜保育園の定員充足率が低下している状況を示したうえで、民間移管対象法人11法人に対し、民間移管についての意向調査を実施いたしました。これは、見直しを実施するに当たり、あくまで参考にしたいということと、今後の民営化計画を検討するに当たり、移管先事業者の募集範囲や移管条件等の参考にしたいという趣旨での調査です。その結果、応募するが1法人、不明が1法人、応募しないが9法人です。応募するとした法人は、新居浜保育園は当法人が設立した保育園であり、移管するのであれば、当法人が受けるべきと回答しています。不明とした法人は、平成24年に移管される園の運営に職員、法人とも全力で取り組み、1年間の検証を経たうえで、結論を出したいとしています。応募しないと回答した9法人につきましては、現在の園運営に手いっぱい、余裕がない。質量とも保育士の確保が困難。特別保育事業を予定しているため。保育制度改革など国の動向が懸念される中、将来的な見通しがたたないなどの回答が寄せられました。

見直しの内容は、公立保育所の民間移管については、経営の成り立つ保育所は民間に担ってもらい、公共サービスでなければ担えないものは行政でという大義のもとに実施してきたことから、新居浜保育園の定員充足率を鑑み、現行の基本方針において、平成25年4月に民間移管を予定している新居浜保育園の民間移管は中止し、現行の基本方針を終了することとしたいと考えております。

最後に、今後の民営化計画につきましては、現在の移管対象法人の意向などを考慮しながら、これからの各公立保育所の定員充足率などの状況を見極めたうえで、あらためて民営化対象園の選定、移管先事業者の募集範囲及び移管条件等の検討を行い、これらの結果に基づき、民営化に関する新たな方針について検討することとしたいと考えております。

市長 福祉部からの説明を受けましたが、経過の中にもあったように、平成15

年当時からこの問題に取り組んできた。激しい反対の署名や説明会をかさねてきたので民間移管というところでは一番難しいところをやってきたと思う。

民間の保育所においても保育サービスはしっかり提供できるということは移管をした今までの2園の状態をみても間違いはなかったと思う。しかし、最初に想像していたよりは保育士の確保の難しさなど、運営する民間保育所にとっては経営的にメリットのあるようなものではないということも感じてきた。現在に至り新居浜保育園は大きな基本方針の「充足率」という観点から今の状況では民間移管はできないので、現行の基本方針を終了する。

「終了する」と「延期をする」という考え方があるが、充足率については今後も改善はしないだろうという判断だと思う。これについて、方針を決定するのだがご意見は有るか。総務部長どうですか。

総務部長 今回充足率が低下しているということで新居浜保育園の民間移管を中止するということが、現在まで3園、上部、川東、川西と地域もバランス良く民間移管ができたので、これでよいのではないかと思います。

市民部長 見直し理由として充足率の低下をあげているが他の園の状況はどうか、また、民間移管している八雲、南沢津の充足率はどのようになっているか。

福祉部長 まず、本年4月1日現在で、八雲保育園は104.7%、南沢津保育園は87.5%である。南沢津保育園は当初新しい職員が多かったために、受け入れをセーブしていたということがあったようだ。

公立保育園の中で充足率が高いのが金子保育園の131.1%。反対に低いのが若水乳児園で35.6%。全体では公立が96.1%、私立が104.2%。市全体で100.9%である。

市長 それでは、新居浜市立保育所の民営化についての基本方針の見直しということで新居浜保育園の民間化についての中止と今後の民営化については改めて移管先事業所の範囲などの検討を行うこととしたい。

今後、保護者、議会への説明を行っていく。

## (2) 総合文化施設について

市長 次に総合文化施設について、基本設計を委託した内容がある程度まとまってきたため、市民検討委員会の議論も並行して行われている。その内容について情報を共有し、職員として、一人ひとりの感覚としてお気づきの点や聞きたいことがあればここで話をしたいと思う。これも、今後、市民や議会に対して十分納得いく説明をしていかなければならないもの。

企画部長から説明をお願いする。

<企画部長>

総合文化施設について現在の状況について説明申し上げます。

本年4月より、市民組織である建設委員会を4回開催し、22年度末に決定したプロポーザル案をもとに協議を重ね、基本設計の素案が出来上がりましたので、全体の概要を説明した後、総合文化施設準備室長から個々の施設についてのご説明をいたします。

資料1 ページ目をご覧ください。

本施設は、ページ上段に示してございますように市民文化の拠点、JR新居浜駅周辺整備の森の駅構想の拠点、博物館都市の拠点施設としての位置づけとし、創る・学ぶ・育むをキーワードとして施設整備を図ろうとするものでございます。

中心機能であります美術館、小劇場をベースに、太鼓台をはじめ産業遺産、お手玉などの地域文化の継承を通し市民や来街者の交流を生み出すことで新しい新居浜の創造を目指しております。

2 ページ目は、本施設の事業の枠組み、3 ページ目はその事業に対する諸室の構成を示したものでございます。

4 ページ目には、美術館、小劇場、いはま文化の各施設における年間事業スケジュールの基本的な考え方をお示ししてございます。事業の詳細につきましては、年度末までに市民活動をしている関係諸団体と詳細なヒアリングを行い、必要人員や事業予算についての検討を行いたいと考えております。

続きまして建物の概要の説明をさせていただきます。模型と資料の5 ページに模型の写真をご覧ください。

建築の特徴といたしましては、森の駅を中心施設と言う位置づけから、緑の空間を少しでも多く取るために外壁を4方の道路境界からそれぞれ約20mほどセットバックしております。また、駅前という性格から、正面と裏側という設定ができないため、駐車場を敷地の段差を利用し半分地下に沈めることで、人と車の動線を分離し、市民や来街者が4つの街角からそれぞれアプローチができ、また通り抜けすることも可能なような動線計画としております。

このことは、プロポーザル案を決定する際の重要なポイントでございまして、施設計画の柱として検討してまいりました。

資料6 ページをご覧ください。

本施設は当初、美術館、小劇場、いはま文化など主要機能の面積規模を設定しながら施設規模を約7000㎡と設定いたしておりました。

しかしながら各主要施設面積を膨らますことなく計画をしてまいりましても、主要なそれぞれ施設に独立した動線の確保が必要となったことや、トイレなど共用部分がそれぞれの主要施設に独立して必要となったことから、現在レストランと駐車場部分を除き7865㎡の計画となっております。また駐車場につきましては、施設の用途と規模から計算し182台としております。

次に1ページ飛ばしまして資料8ページをご覧ください。

ここが来館者の導入レベルとなる階で、道路よりなだらかな坂を上りながら入館していただき、中央の吹き抜けを配置することで、美術館や小劇場の顔が少し見えるよう工夫しております。またこの階にはアート工房、それから太鼓台ミュージアムをはじめ産業遺産やお手玉など新居浜の文化を展示するフロー構成となっており、市民活動の中心となる機能を配置しております。

次のページをご覧ください。

先ほどの階から1階上がったところが美術館でございます。展示室を3つのブロックに分け、展示室1は、寺坂公雄記念室として常設展示をする予定です。展示室2は、国内外のすぐれた美術品を展示できるような部屋とし、展示室3は、部屋の仕様としましては展示室2と同等ではありますが市民ギャラリーとしても活用できる部屋といたしております。

次に2ページ戻っていただき7ページをご覧ください。来館者の導入レベルから1階下がったところが小劇場のフローとなっており楽屋や練習場やリハーサル室となるスタジオ等を配置しております。またこのフローと1階の踊り場レベルに交流サロンと呼ばれる屋内のフリーステージとカフェを計画し、駅側の屋外フリーステージと連続性を持たせることで開放感のある施設を目指しております。

次に11ページをご覧ください。小劇場の詳細についてでございますが、本施設が複合施設であることを考慮し、ロールバック形式の座席により、すべての椅子を収納し舞台から客席までを段差のない平土間とすることを可能にすることで、展示室やレセプション会場などに利用できるように考えております。

最後になりますが、想定してきた施設規模に対しての約1割増加分等がありますことから、コストを精査し、効率的な設計となるよう取り組んでまいり、9月末には基本設計を完了したいと考えています。

続いて総合文化施設準備室長から施設についての補足説明をいたします。

#### <総合文化施設準備室長>

先ほどの企画部長からの説明の補足をさせていただきます。

まず、美術館でございます。資料 9 ページをご覧ください。当初計画は寺坂公雄記念室として 250 m<sup>2</sup>の常設展示室、企画展示として 1000 m<sup>2</sup>で内部を分割し利用できるものを予定しておりましたが、建設委員会や文化団体とのご議論の中で、市民が気軽に利用できる展示室が必要ではないかというご意見があり、目的に合わせた展示室 2 と展示室 3 の 2 つの展示室を用意することにいたしました。展示室 3 は市民ギャラリーという性格をもたせます。全国的な展覧会を開催しようとするときには、展示室 2 と展示室 3 の両方を使い、1000 m<sup>2</sup>の一つの展示室として利用する事を想定いたしております。

次にいはいはま文化の中の太鼓台ミュージアムについてでございます。資料としては、8 ページになります。

当初計画では、太鼓台展示につきましては、2 台で考えておりました。目的といたしましては、1 台は見せるための太鼓台の実物展示、もう 1 台は体験ができるものとして展示しようとする計画でございましたが、日本中で展開されている各地区の山車の展示場の資料や実績を参考にしながらアドバイザーから頂いたご意見や建設委員会のご議論の結論として、太鼓台の展示については「誇り」をテーマに展示するべきであるという意見をいただきました。

その経緯を踏まえ、実物展示につきましては実際運行をしている太鼓台を輪番制で展示していただき、地元の方々に自身の太鼓台を自慢していただけるようなものとし、体験展示としては、一宮神社、八幡神社、山根グランドなどの太鼓祭りのエネルギーを伝えるため、360 度のパノラマ映像と迫力のある音響で臨場感を表現することしました。なおアドバイザーの鴻上尚史さんから映像作りの協力について内諾を得ております。また、この映像設備は、本施設がいはいはま文化のアーカイブスとしての機能を最大限に発揮するための重要な施設として位置づけをしておりまして、太鼓台だけでなく多喜浜塩田を含む近代産業遺産また新居浜の自然地理や市民活動の紹介の中心的な場になるものと考えております。

また、展示についての各太鼓台との協議は、最初に太鼓祭り推進委員会で説明をさせていただいた上で進めていこうと考えておりまして、大事な太鼓台をお借りするという意味で環境からの保護と人的保護の観点からガラスケースの計画をいたしておりますが、これらのしつらえにつきましては今後の協議により変化するものと考えております。

次に、飲食についてでございます。資料といたしましては 7 ページ右側をご覧ください。

本施設での事業のターゲットといたしましては子供さんを中心に展開しようと考えておりますことから、内部と外部の接点になります交流サロンに低廉な価格で飲み物等を提供できるカフェを計画いたしております。しかしながら、現在の駅前に一定レベルの食事を提供できるレストランが少ないことから、市民要望としてレストランが欲しいと

いう意見が強く、施設本体の開館時間に左右されないよう館外にレストランを計画することといたしております。これにつきましては、今後の民間事業者の展開を注視し、近隣にレストランが開設されるようなことになれば取りやめにしたいと考えております。

次に本施設の環境対策でございますが、建築自身として環境負荷を小さくすることを第1の命題として設計に取り組んでおります。従いまして、屋上や壁面の緑化、外断熱や高性能ガラス、また、外気の取り入れ方や目的に応じた空調の方式の検討により負荷の低減を図っていきたいと考えており、目玉といたしましては、地下水の熱を空調の熱源として利用しようということを検討いたしております。もう一方で、太陽光発電などの自然エネルギー源を取り入れることも必要であることは十分に認識いたしておりますが、費用対効果の観点から、駐車場や外部照明等に利用したいと考えております。次に、本施設の災害対応への考え方でございますが、建築や設備の耐震グレードを避難所としての位置づけが可能なレベルの構造として設計を進めております。

市長 はじめて説明を聞かれた方もいるが、率直な意見をお聞かせください。  
全体のイメージはわかりますか？3つのブロックに分かれて中でつながっている。トータルとして3層の建物になる。

水道局長 太鼓台の展示が電車から見えるようにという話であったが、どうなっているのか。

総合文化施設準備室長 当初、外からでも見えるようにしたいという話し合いをしていましたが、現実的には紫外線や環境的な保護の観点からは難しいという判断をした。しかし、各地区からお借りして展示をするので、見えるような努力はしていきたい。

水道局長 駐車場へは四隅から入るようになるのか。

総合文化施設準備室長 基本的には南側から入車することになる。その後の動線は4隅からそれぞれ建物の中になだらかに侵入していくという形。駐車はフラットなスペースにする。

水道局長 駐車スペースと天井はどのようになっているのか。

総合文化施設準備室長 高いところでは、約5メートル、低いところでは約3メートルとなる予定。なだらかな傾斜はしている。

水道局長 会場の外に駐車場を作るより有効利用できるということか。

総合文化施設準備室長 そうです。半地下にすることでコストがかさんでくるので、表面をなるべく開放することでコストを抑えるよう努力したい。

水道局長 植栽については検討しているのか。

総合文化施設準備室長 施設の事業展開も考え、植栽を検討していきたい。

市長 駐車場の屋根はどうなっているのか。

総合文化施設準備室長 屋根がある部分とない部分がある。7ページの図面で点線に囲まれている部分は屋根がない。そのため、純粹に地下ということであれば、東側の駐車場が該当する。

市長 全体の中で、駐車台数の確保など工夫をしていただいていると聞いている。消防関係は大丈夫か。

総合文化施設準備室長 事業者にも調整してもらっている。

水道局長 野外ステージはどのようなアプローチになるのか。

総合文化施設準備室長 (模型で説明)

水道局長 そこでイベントができるのか

総合文化施設準備室長 できる。いろいろな展開ができる。

市長 レストランについては、建物の中には入れないということ。民間でできるのならば民間でやらしてもらおうということである。市民からするとこのあたりにレストランがほしいという要望はあるのだが、もし、設置するなら建物外に建設するという予定である。施設が出来上がった後に建設はできる話にはならない。

総合文化施設準備室長 今の計画から行くと敷地全体が構造物という位置づけになるため、レストランの建設については施設全体で考えていきたい。

市長 レストランの考え方はどうか。

市民部長 民間がしないものを市がするのはどうか。将来その建物を転用して利用できるのならば良いと思うが。

総合文化施設準備室長 全国の施設を見学させてもらったり研究していく中で、施設の美術館の企画展とレストランのメニューをコラボさせている例があり、企画展よりもレストランが人気になっているそうである。レストランの質にもよるが、アクションの方法によってはにぎわいを作る一翼になることも期待できる。

市長 太鼓台の展示についてはどうか。

総合文化施設準備室長 新居浜市の太鼓台50台、全部が展示をについて了解していただけることが最終目標である。

経済部長 太鼓台の展示に関して施設に運び入れるとなると警察の許可が必要になる。また、入れ替えるとなるとその手間は大変なものになる。組み立てや解体をすると太鼓台が痛む原因にもなる。展示の方法、たとえば太鼓祭りのかきくらべで優秀賞を取った太鼓台が展示できるなどルールや方法を考えて、施設に展示できるのは誇らしいことだ、と思ってもらうような仕掛けが必要。太鼓台にかかわっている人たちが、駅前の施設にわが地区の太鼓台を展示したいと思ってもらう仕掛けが必要。

市長 建物のレイアウトとしては、太鼓台1台の展示スペースということではよろしいか。

建物の面積だが、個々の部屋の面積は変わっていないのか。今回増えたのは空間部分なのか。

総合文化施設準備室長 面積が1割程度増えたのは、出入り口を確保したことやエントランスなどある程度の余裕が欲しいことなどによるもの。

市長 小劇場の椅子は固定式にすると費用はずいぶん変わるのか。

総合文化施設準備室長 はい。しかし、部屋全体がフラットになることにより、美術展示室で展示できない華道や茶道の展示や多人数の子どものワークショップも可能となり、有効利用ができる。

経済部長 多機能の施設を建設するだけではだめ。建設した後にその施設を具体的

にどのように利用し、どう生かしていくかを考え、結果を残さなければ無駄になる。あれにも使える、これにも使えるだけではだめ。

総合文化施設準備室長 資料にもあるが、それぞれの施設の利用計画を作っているが、これをもとに担っていただける市民グループとともに、熟考して1日単位の利用計画を作り上げていきたい。

経済部長 小劇場は何席なのか

総合文化施設準備室長 250席で当初の予定から変更していない。固定席の方が椅子のグレードは高い。

福祉部長 座席の配置は、前列だけでなく、すべての席にアールをかけると観客みんなが舞台を見やすくなると思うので、椅子のレイアウトをもう少し考えてほしい。

総合文化施設準備室長 わかりました。

経済部長 施設の利用は無料なのか。

総合文化施設準備室長 市の主催事業は無料となるがその他は有料。

建設部長 駐車場の出入り口は南側だけか。  
人の出入りとして、駅側の方へ駐車場から上がっていくことはできないのか。

総合文化施設準備室長 身障者スペースの駐車場があるところからは地下から施設に上がっていくスロープは設置する。

建設部長 駐車場からは、いったん建物の外にでて、通常の入り口から施設へ入場することになるのか。

総合文化施設準備室長 そうである。

建設部長 もっと駐車場から施設に入りやすいようにした方がよいのでは。  
また、施設の中でも上下動きやすい動線を考えたほうがよい。

総合文化施設準備室長 わかりました。駐車場からの動線については再度検討する。

環境部長 駐車場が水浸しになっても本施設が大丈夫なようにしているのか

総合文化施設準備室長 自家発電でポンプを設定している。電気が止まった時の対応についても検討する。

市民部長 森の駅というイメージで駅前区画整理事業を推進してきたが、駅から文化施設をつなぐ部分に緑がないと思うので、検討してほしい。

建設部長 現在、新居浜駅の東側に駐輪場を予定しているので、今後植栽を検討する。

市長 これから、確かめながらやっていきたいので今後も関心を持ってください。是非、いいものを作らなければならない。今後は、8月の会派説明から市議会への説明をしていく。

### 3. その他

市長 それでは、あらかじめの議題は以上であるが、連絡事項は有りませんか。

来年は市政75周年になります。具体的なことはこれからですが、今考えている75周年記念事業に対するスケジュールについて企画部から説明をお願いします。

#### <企画部長>

市政75周年記念事業について、現在の考え方を説明いたします。

記念事業の提案を募集したい、ということですが、基本的な考え方としては第5次長期総合計画の目指す都市像の実現に合致するものであり、各課で企画し、自ら主体的に取り組んでもらえるものを募集したいと考えています。募集期間は9月の1ヶ月間。選考審査は企画部で行い、最終的には庁議で決定したいと考えています。事業費は特に上限は設けていないが、財政状況には配慮したものとします。

公募補助金については、受付申請が8月上旬から予定しているが、公開審査を行う補助事業で、75周年記念事業の趣旨に合致するものであれば、冠事業にするというようなことも考えています。今のところの予定は以上のとおりです。

市長 65周年事業は、翌年に合併を控えていたのでやらなかった。  
75年は、四半世紀であるので記念事業は考えている。記念式典をどうするかであるが、結論は出していない。  
75周年記念事業は先ほどの説明のスケジュールで進めていきたいと思うが、長期総合計画で定めている都市像や事業の実施に沿った提案をしていただきたい。  
75周年記念事業については、9月議会でお話をしなければならないだろうし、予算も必要なことなので今後定めていく。

市長 昨日、新渡海船 大島7（セブン）の進水式に福山へ行きました。  
良い船ができました。10月末か11月には運行開始をします。

総務部長 電気代について、昼休みの節電も実施し、22年7月と23年7月の比較では10.4%の減となった。その大きな理由は、去年は選挙の期日前投票があったことと現在消防庁舎の空調が故障していることと思われる。

市長 それではこれで終了する。